

# 3く3く

第7号



## 特集

小野崎の家 01

盆栽もり 02

## information

パネツツア 04

## report

新板倉構法／つくば市測定室  
 応急仮設住宅／茅葺き文化協会「富士宮大会」 04

「小野崎の家」DATA

延床面積 約65坪  
 構法 板倉構法  
 外部仕上げ 日本瓦葺（いぶし）  
 屋根 大壁焼き杉板張り、漆喰塗り  
 外壁 ガリバリウム鋼板横置き  
 庇 外部建具（複層ガラス）  
 内部建具（複層ガラス）  
 内部仕上げ スギ本実板あらわし、漆喰塗り  
 床 畳  
 壁 スギ本実板 厚1寸  
 内部建具 玄関 瓦骨材入り研ぎ出し仕上げ  
 木製建具



小野崎の家

秋の木漏れ日の注ぐ南側のテラスと縁側

広い土間を見上げると幾重にも重なった力強い松の丸太梁にため息がもれる。一見しても大切に住み継がれてきたことが感じられる民家の大きな梁組は、熟練の大工もなかなか見ることのないという見事なものであった。

建主から設計の相談を受けたのは三年前、東日本大震災の直後であった。両親を迎え



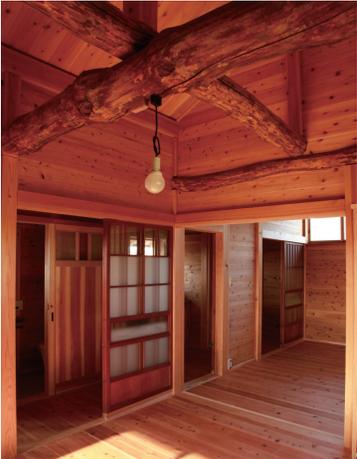
農作業の場であった広い土間はタイル貼りの台所兼食堂となった

入れるにあたって、木の家で健康的な暮らしをしたいとのこと。

期を同じくして、明治時代に建てられた笠間市の民家が震災により被害を受け、解体を余儀なくされていた。幸い構造材に傷みはなかった。趣のある雰囲気古民家に惹かれ、梁組を譲り受け再生することとなった。



深い軒下は大谷石を敷き詰めたアプローチ



増築された2階

出桁づくりの深い軒はそのままに、棟の平屋の一部を板倉構法で二階建てとした。土間の床や水廻りは建主自ら選んだタイルで彩られ、無垢の木肌と馴染んでいる。内部建具の大半はこの家と共にあった古建具を再利用。建付け直された古建具は居場所を心得ているようで誇らしげである。外構は大谷石の踏み石を基調に、珪藻土塗りの塀と竹垣をまわした。

築一五〇年を経た民家は今後も未永く新しい家族を守ってくれることだろう。



幸田庵は、つくば市が推奨する宅地一体型民有緑地として、広さ八〇坪と大きな庭に、サクラ、コナラなどが植えられている。それらを活かしつつ、盆栽の展示場と作業スペースを友人たちに協力を得て、盆栽園をつくりあげた。三〇以上の作品が展示されている。心地の良い庭で、近所の人も遊びに来るとか。外国人の多いつくばで日本の盆栽文化を広めてもらいたい。

「盆栽もり」では定期的にワークショップを開催している。また、自身の手がける盆栽を企業、個人店にリリースすることも可能。

森 隆宏 ● もり たかひろ  
盆栽技師。2002年大学卒業後、盆栽業界の門をたたき4年間修業。2009-2013年、世界初の公立盆栽美術館「さいたま市大宮盆栽美術館」にて盆栽専門技師として勤務。2013年4月盆栽園「盆栽もり」を開業。4年に1度開催される「世界盆栽大会」の誘致活動（2017年開催国は日本に決定）、欧州文化首都での盆栽イベント（2013年スロバキア共和国、米カリフォルニア州での技術指導など）盆栽の魅力を国内だけでなく海外にも発信する。趣味はインテリア、登山。

盆栽もり 茨城県つくばみどりのA84-3幸田庵  
開園日時 土曜日・日曜日 10:00-17:00  
mail bonsaimori298@gmail.com  
Web https://www.facebook.com/Bonsaimori

幸田庵ができるまで

①改修前の蔵



②移築と増築



③土壁づくりワークショップ



④小舞踊とたたきに取り組み参加者



⑤貸し民家幸田庵竣工



ろくろく一号で紹介した貸し民家「幸田庵」の住まい手が昨年秋ごろに決まった。盆栽技師の森さんだ。森さんは世界初の公立盆栽美術館「さいたま市大宮盆栽美術館」で専門技師として勤務するなか、かねてより準備していた独立のために、職場兼住まいを探していたところ、

「貸し民家幸田庵」に出会う。蔵を改造した民家の雰囲気や土地の広さなどロケーションが気に入る。また、少年期をつくば市で過ごし、親しみのあるこの街で起業を決意。

入り、照らされる梁組の影がシンメトリーに伸び幻想的なところ等を気に入っている。マンション暮らしが長く、入居当初は戸惑う面もあったが満足している」と森さん。一階の土間は、こだわりの木製家具がならび、漆喰壁や板壁とマッチして、落ち着いたあるカフェ風の空間

だ。二階はプライベートな空間として使っている。「盆栽は樹木だけでなく、鉢の陶芸、日本庭園、日本家屋、デザイン等と密接に関わる。一階は異分野の人たちとの交流の場とした。そして将来的にはモノづくりやビジネスを展開していきたい」と話す。

八〇坪の庭園では松を中心に様々な盆栽が育てられている



代表的な盆栽樹形「模様木」正面から楽しむのが基本



室内のいたるところに作品が展示されている



## PANEZZA 2013.5

### 古民家の蔵を改修したパン工房

茅葺き屋根など豊かな農村景観が残る石岡市八郷地区にパン屋さん Forno a legna Panezza (パネツァ) がオープン。農家の蔵を利用した薪窯で焼かれるのはイタリアパン。屋根には1階薪窯から煙突がのびて一見すると普通の蔵ですが味噌や醤油をつくるのではなく、パンをつくっています。塩と水と小麦を発酵させ焼き上げられるパンは、作り手の角谷さんが4年間、イタリアで学んできた本場仕込みの味。

蔵は年間を通じて一定の温湿度を保つことや、火に強いなど建築的特性があります。そして排煙や薪の管理には余裕のある敷地が必要であるため農村部の古民家の改修に着手。蔵の改修は里山建築スタッフが担当いたしました。また、薪窯は益子焼の登り窯職人による施工です。

創業を記念して5月にオープンイベントを開催。薪によるクラシックな手法で焼かれたパンは香りがよく、食べごたえあり。プレーンの他にクルミ、レーズン、オリーブと楽しめます。



パネツァのパンは、つくば市で人気のイタリアンレストラン「ピッツェリア・アミーチ」毎月第一日曜に開催される「つくいち」などで購入できます。

## report

### 測定室が板倉構法で 2013.4 放射能測定室験

震災以降つくば市は放射能対策室を設置。学校給食など食品に含まれる放射性物質の検査も行っています。つくば市役所の敷地内に測定室が板倉構法で建設されました。間口が狭く奥行の長い建物で、設置された機器が上手く動くよう、板倉構法のもつ温湿度の安定性が発揮された空間となりました。



### 新板倉構法 2013.7

#### 次世代省エネ基準に対応する板倉構法

これまで以上の断熱性や気密性を求める次世代省エネ基準に対応するために、新しい板倉構法の開発が進んでいます。断熱材を壁に施工できるよう、これまで木ずりを打ち付けていたところに、細長い堅木を取り付けます。那賀川すぎ共販協同組合が主体となって予備実験をしています。これまでと同等の耐力が得られる見込みです。年内には指定の試験機関で大臣認定を取得する予定です。



### 応急仮設住宅 2013.6

#### いわき市高久第十応急仮設住宅

3年目の夏を迎えた板倉の仮設住宅。家のまわりには住人によって植えつけられた花壇や菜園が年々充実してきました。特に表通りに面した側には、段差を使用して花を植え、様々な花が咲き誇っていました。そこは室内から見えないにも関わらずイギリスのコテージとそのガーデンのような風景ができあがっています。

花の手入れをしていた住人の1人にお話を聞きました。「気晴らしにやっている」と話す住人の方。「隣が綺麗に花を咲かすうちも綺麗にしようと思ってやっているんですよ」と微笑んでいました。また、仮設住宅にも軒を深くしてほしいという要望に応じて、軒がさらに深くさじだされたところもありました。追加工事によって木製の物置も軒下に配置され、心地よい外部空間に整備されていました。縁側やポーチを設けた木造の仮設住宅は住民によってその開放性がさらに拡大され、それぞれの好みにあった家になっているようでした。



### 静岡県富士宮大会 2013.6 日本茅葺き文化協会

日本茅葺き文化協会「静岡県富士宮大会」に参加。今年、世界遺産登録された富士山は文化遺産登録されました。こういった機運もあり富士宮大会開催に至ります。実は、静岡県は茅葺き屋根の材料である「茅」の日本最大の産地でもあります。その茅を育てているのが富士山の裾野の草原です。屋根の材料をはじめ、家畜の飼料、農業の資材と幅広く使われて生業の場でした。現在でも御殿場では8,900ha、朝霧高原では150haと広大な茅場が広がっています。御殿場は東日本最大の茅場で、屋根材として日本全国へ出荷しています。朝霧高原では畜産が盛んなため、農業用として供給してきました。

しかし、現在では富士山麓の広大な草原と茅場が活用できているのはごく一部。屋根の材料以外にも茅と茅場の価値について議論されました。



### 株式会社里山建築研究所

〒300-0411

茨城県つくば市北条一八四

TEL: 029-867-1086

FAX: 029-867-1083

URL: <http://satoyama-archi.co.jp/>

E-mail: [satoyama-archi@air.ocn.ne.jp](mailto:satoyama-archi@air.ocn.ne.jp)

### 会社概要

里山資源を生かした居住スタイルを探る実践的な試みの場として、筑波山の山裾に開設したのが、里山建築研究所です。現代の里山に循環を取り戻すべく考案された板倉の家を提案し、時代の趨勢に合わせ変わり続ける民家の現代のかたちを探ることが、私達の試みです。

### しごと

設計・設計監理

「板倉の家」…新築、改築

「民家再生」…改築、移築

「茅葺き」…葺き替え修繕、新築

他 「企画制作、調査研究」

「地域づくり支援活動」

### 編集後記

盆栽といえば松と想っていたのですが、楓、竹、梅、柿と様々な樹種が楽しめるそうです。私もいつか、縁側で小鳥のさえずりを聞きながら「もう春か」などと呟きつつ盆栽を楽しめるようになりたいです。K

